

ファイネット、'23年度ユーザー会開く

業務効率化とコストダウン推進



また、ファイネットとして「EDI サービスに加え、23 年 3 月からファイル配信サービスという新しい提案を開始した。この利用を推進することで、業界の商慣行を尊重しながら法制度対応と業務効率化というテーマに添えていきたい。また、物流問題に対応した製販配連携についても ASN（advance shipping notice）事前出荷情報」データを活用した施策に参画することで、業界への貢献につながる取り組みを推進していきたい」と

『業界共通基盤として期待できる』との声を頂いており、紙ベース業務からの脱却に貢献したい。引き続き業界共通の情報インフラを提供する企業としての役割

ファイネットは 10 月 26 日、2023 年度ユーザー会を開催した。開催に先立ち、西井孝明社長（写真）は業界を取り巻く環境について「アフターコロナの時代に入り、インバウンド需要はほぼコロナ禍前に戻ったといわれる一方、労働人口の減少に起因する人手不足の問題が深刻化。10 月から施行されたインボイス制度、24 年 1 月からの電子帳簿保存義務化、物流の 24 年問題等の対応なども課題となっている。また、DX 改革や期待される自動化も、様々な新しい取り組みが始まっているが、これらを後ろを決めながら導入していかなければならない」と述べた。

語った。

ファイネットが推進する各種事業について「VAN サービスの加入ユーザーは着実に増加しており、22 年も安定的なサービスを提供することができた。昨年 10 月には 13 回目の値下げを実現。これもユーザーの皆様にご利用の範囲を広げて頂いたお陰と感謝している。ファイネットはデータ基盤の安全運用に最新の注意を払い、さらなる業界全体の業務の効率化とコストダウンに取り組んでいきたい。ファイル配信サービスは

メーカー・卸別加入企業数（各 9 月末時点）

	2015 年	16 年	17 年	18 年	19 年	20 年	21 年	22 年	23 年
メーカー	1,267	1,376	1,388	1,403	1,423	1,444	1,483	1,515	1,594
卸店	546	544	533	538	554	569	665	667	698
合計	1,813	1,920	1,921	1,941	1,977	2,013	2,148	2,182	2,292

を担うべく、円滑なサービス運営と顧客満足度向上、業界貢献という 3 つの事業目標に取り組んでいく」と強調した。

続いて久我章良専務が EDI サービスについて、「新型コロナウイルスが流行して 3 年が経過し、ようやく 5 類感染症に移行され

た。コロナ前の 20 年 3 月末と直近の 23 年 9 月末を比較すると、加入企業数は 22 9 2 社で 20 年 3 月末比 5 1 2 社増、接続数は 1 万 3 8 4 8 接続で 2 2 4 3 接続増、データ件数もトータルで 32 億件を超えた。コロナ禍以降、EDI 拡大の取り組みが進んでおり、加入企業数・接続数が大きく伸長した」と説明。業務の見直しは現在も継続しているとみられ、久我専務は「EDI の拡大は続いており、FAX など紙の業務から電子化への流れは、今後も続く」と予想している」と強調した。

次にユーザーとの協働取り組みとして、卸合同 EDI 普及活動を紹介。ファイネットが事務局として 2 年半に及び活動しているもので、受発注や出荷案内の EDI 化を検討している相手（メーカー）に対し、卸と協働でアプローチするもの。普及活動にはこれまでの 7 社（伊藤忠食品、加藤産業、国分グループ本社、日本アークス、日本酒類販売、三井食品、三菱食品）に新たに 4 社（旭食品、カナン、丸大堀内、ヤマキ）が参加。11 社連名での EDI

料理の決め手は、
おいしいしょうゆ。

超特選しょうゆ
本膳

I 化依頼文書の発信や合同説明会を通じ、より効率的かつ迅速な EDI 化を推進する。21 年 3 月末の活動発足以降、現在までのデータ実績は 2 3 9 関係（メーカー×卸のデータ種単位）に達しており、引き続きユーザーと協働し、EDI 拡大を推進していく。

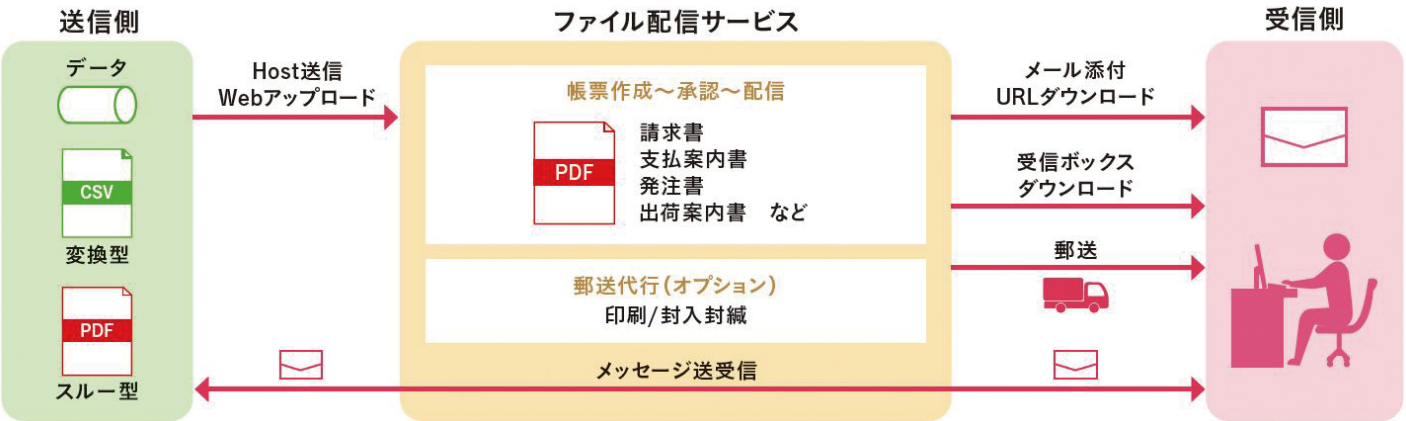
また、ASN（事前出荷

情報）データの活用事例を紹介。これは出荷前に商品の内容・数量・賞味期限などの情報をデータとして送ることによって、トラックで荷物が届く前に卸店内で内容を把握し、検品レスとトラックの待機時間削減を実現する取り組み。実際の事例によると、「配送トラック拘束時間の最大 30 削減」など、大きな効果が報告された。久我専務は「物流危機が目の前に迫っており、ASN データの活用方法を皆様とともに知恵を絞りさらに広めていきたい」と抱負を語った。

このほかユーザー会では、ファイネットのサービス品質・機能およびサポート力の強化として、①長期データ交換停止相手企業のお知らせ ②チャットによるサポートの追加——を説明。

これまで進めてきた PSTN マイグレーション対応については、すみやかにインターネット手順への移行が完了する見込みで、全銀協 TCP/IP 手順は予定通り 23 年 11 月末でサポートを終了する。

また、ファイル配信サービスの新機能として 23 年 12 月 22 日より予定の「データ保管期間延長オプション」（詳細は後日発表予定）を紹介。久我専務は「ファイネットは酒類・加工食品業界の共通インフラとして、さらなる業務効率化とそれに資する新規サービス・データ種の検討を進めていく」と強調した。



ファイル配信サービスを普及促進

ファイネットは23年3月「ファイル配信サービス」をリリースした。同社ではリリース直後に商品流通VANサービス利用企業33社に対しアンケートを実施しており、ユーザー会ではその結果が報告された。

それによると、「ファイル配信サービスを利用したい・検討したい」意向は52・8%（176社）
どのような帳票を想定されているかについては、「商品代金請求書」が1位で、次いで2位が「出荷案内書」、3位が「発注書」。

直近の9月末利用状況は、帳票通数が7万9906通／月、送付元利用企業数が15社（うち大手卸10社）、申し込み企業数が9社、さらに40社が検討中。ファイネットでは今後とも普及促進に注力する。

なお、ファイル配信サービスの詳細は、ファイネットコーポレートサイト上で紹介動画を公開している。

【ファイル配信サービス】
酒類・加工食品業界でEDI化が進む一方、「請求書の送付作業の軽減化を図りたい」「郵送作業を無くしたいが、得意先から紙の帳票を要請される」等の声は依然根強い。ファイネットではファイル配信サービスを通じ、関連業務

の効率化とコストダウンを推進している。

ファイル配信サービスの特長は、①あらゆる帳票の電子化に対応 ②複数企業間での帳票授受を実現 ③安価な料金設定 ④Host送信にも対応 ⑤電子帳簿保存法に対応——の5点。

共通サービス利用による業界全体の効率化を目指しており、①商品代金請求書、出荷案内書、販売促進金請求書などの電子化が可能 ②業界共通基盤により、送信側／受信側ともにメリットを享受。送信側は、複数企業宛のデータもファイネットにまとめて送信することが可能。Host送信にも対応しており、EDIと同様に業務の完全自動化を実現する。また、受信側は受信した帳票をファイル配信サービスでまとめて管理することが可能 ③利用料金は原則送信側負担とし、受信側はファイネットの会員／非会員を問わず利用可能。1通30円から利用可能（配信された帳票の数量に応じた料金のみ）で、標準帳票であれば初期費用や月額費用は不要。先行サービスと比べても安価に利用できる。

（一）

白子のり



白子のりのギフト

伝える感謝、味わう喜び。



のり詰合せギフト

●白子錦-50

株式会社 白子 〒134-8502 東京都江戸川区中葛西7-5-9